

科目名	総合日本語中上級(日本語中上級)							
科目名(英)								
単位数	14単位	時間数	179/215時間	担当者	村上 陽子			
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験				
対象学科・学年	日本語科(2年)2年							
授業概要	日常身近に体験する出来事や社会的な話題について、自分の感想や考えが理由とともに詳しく説明できるようになること、異なる視点や考え方を持つ相手とも、興味・関心を持って適切な表現で情報や意見の交換ができるようになることを目指す。							
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					より複雑な文の構造を理解し、適切な接続により、まとまった内容の文でやり取りできる。		
	○					文章の構造を理解し、まとまった内容の文章を読み書きできる。		
	○	○				理解できる漢字及び語彙を増やすとともに、適切に使用できる漢字や語彙・表現の範囲を広げる。		
	○					発話意図、スピーチレベル、場面などに合わせて適切に表現が使い分けられる。		
	○		○			自らに關係する諸問題について、自分なりの見解を持ち、それを相手が納得するように説明でき、また、異なる視点を持つ者と適切な意見交換ができる。		
テキスト・教材 参考図書	松田浩志 『テーマ別上級で学ぶ日本語』 研究社 2019年							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示			
	1 ～ 9	第6課 うやまう <ガイドさんの宗教> 宗教について			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと。また、授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。(1時間)			
	10 ～ 18	第7課 ふせぐ <並ぶ文化> 安全な社会とは			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと。また、授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。(1時間)			
	19 ～ 27	第8課 もてなす <ローソクの島> おもてなしとは			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと。また、授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。(1時間)			
	28 ～ 36	第9課 よびかける <一茶の目> 無関心社会について			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと。また、授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。(1時間)			
	37 ～ 45	第10課 えらぶ <自らの選択> 生きるとは			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと。また、授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。(1時間)			
	46 ～ 54	第11課 いかす <もったいない話> 「使い捨て」時代について			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと。また、授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。(1時間)			
	55 ～ 63	第12課 つなぐ <折り鶴> 異文化をどう理解するか			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと。また、授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。(1時間)			
	64 ～ 72	第13課 たのしむ <なりわい> 仕事とは			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと。また、授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。(1時間)			
	73 ～ 81	第14課 きたえる <健康な社会> 健康志向社会が目指すもの			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと。また、授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。(1時間)			
	82 ～ 90	第15課 いきる <ひとつの地球> 平和とは			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと。また、授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。(1時間)			
	評価方法	(1)授業の中で確認テストを3回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 (3)授業への参加状況(日本事情の際の発表や作品)。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		定期試験	◎	◎				40%
		確認テスト	◎	◎				40%
発表・作品					◎		20%	
履修上の注意	出席が72回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	総合日本語中上級(日本事情)						
科目名(英)							
単位数	14単位	時間数	36/215時間	担当者	堀 千佳		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(2年)2年						
授業概要	日本の社会と文化を多角的にとらえ、自国と比較しながら身近な話題として体験する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○		○				
	目標 情報を正しく受信し、自分の意見や見解を正しく発信することができる。						
テキスト・教材 参考図書	佐々木瑞枝『クローズアップ日本事情15』 ジャパンタイムズ 2017年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	日本ってどんな国？			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	2	都市の暮らし・地方の暮らし			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	3	日本の旅を楽しもう			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	4	いただきます！			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	5	季節を楽しむ年中行事			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	6	知っておきたい日本の歴史			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	7	伝統文化体験			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	8	現代文化とポップカルチャー			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	9	スポーツの楽しみ方			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	10	前進を続ける科学技術			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	11	地球のためにできること			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	12	教育と子供たち			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	13	産業構造と経済			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	14	政治と憲法			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	15	多文化共生社会を目指して			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	16	内容確認問題ユニット1～5			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	17	内容確認問題ユニット6～10			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	18	内容確認問題ユニット11～15			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
評価方法	(1)授業の中で確認テストを3回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 (3)授業への参加状況(日本事情の際の発表)。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				40%
	確認テスト	◎	◎				40%
	発表				◎		20%
履修上の注意	出席が72回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	文字語彙中上級						
科目名(英)	Japanese Vocabulary						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	今長 まゆみ		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(2年)2年						
授業概要	日本語能力試験N1「言語知識」科目の「文字・語彙」と同じ形式の問題を解くことで文字語彙力を強化し、7月のN1合格を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				前後の文脈に合うN1レベルの語彙を使うことができる。	
	○	○				N1レベルの語彙を同じ、あるいは、意味の近い他の表現に置き換えることができる。	
	○	○				N1レベルの語彙が文の中で適切に使われているかどうか判断できる。	
	○	○				N1レベルの漢字語彙に適切な接頭辞や接尾辞をつけることができる。	
	○					N1レベルの漢字の読み書きができる。	
テキスト・教材 参考図書	松浦真理子・鈴木健司『日本語能力試験対策 日本語パワードリルN1 文字・語彙』アスク出版 2018年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1回、第2回、第3回				復習と予習をすること(1時間)	
	2	第4回、第5回、集中トレーニング①動詞(1)、②動詞(2)				復習と予習をすること(1時間)	
	3	第6回、第7回、第8回				復習と予習をすること(1時間)	
	4	第9回、第10回、集中トレーニング③慣用句(1)、④慣用句(2)				復習と予習をすること(1時間)	
	5	第11回、第12回、第13回				復習と予習をすること(1時間)	
	6	第14回、第15回、集中トレーニング⑤カタカナ語(1)、⑥カタカナ語(2)				復習と予習をすること(1時間)	
	7	第16回、第17回、第18回				復習と予習をすること(1時間)	
	8	第19回、第20回、集中トレーニング⑦⑧擬音語・擬態語(1)(2)				復習と予習をすること(1時間)	
	9	第21回、第22回、第23回				復習と予習をすること(1時間)	
	10	第24回、第25回、集中トレーニング⑨擬音語・擬態語(3)、⑩パソコン				JLPTに備えてテキストを総復習すること(1時間)	
	11	第26回、第27回、第28回				JLPTに備えてテキストを総復習すること(1時間)	
	12	第29回、第30回、集中トレーニング⑪大学生活、⑫ビジネス				テキストを復習すること(1時間)	
	13	パワードリルN1文字語彙まとめテスト①(P8～P31)				テキストを復習すること(1時間)	
	14	パワードリルN1文字語彙まとめテスト②(P32～P55)				テキストを復習すること(1時間)	
	15	パワードリルN1文字語彙まとめテスト③(P56～P79)				間違えた問題を再度確認すること(1時間)	
評価方法	(1)授業の中で小テストを3回実施する。(2)期末試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	期末試験	◎	○				50%
	小テスト	◎	○		○		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	文法中上級						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	野口 仁美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(2年)2年						
授業概要	文法は「聞く・話す・読む・書く」の基礎になるものです。この授業では、実際にその文法がどのように使われているかを知り、基本的な練習で使い慣れ、まとめの問題で話を聞いたり日本語の文章を読んだりする運用練習をします。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				イベントなどに関する記事を読んで、その特色や様子が述べられる。	
	○	○				公的な立場の人のスピーチを聞いて、現状の説明と提言が予測できる。	
	○	○				昔話の表現を楽しみながら、物語の展開を追って読める。	
	○	○				実用書などを読んで、筆者の考察が予測できる。	
	○	○				ドラマのシナリオを読んで、登場人物の批判的な心情が予測できる。	
テキスト・教材 参考図書	町田恵子他 『TRY!日本語能力試験N1』 アスク出版 2013年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業の概要説明 1ニュースを読む 見本文・文法項目				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	2	1 ニュースを読む 文法項目・チェック・まとめの問題				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉等は調べておくこと(1時間)	
	3	2 スピーチを聞く 見本文・文法項目 小テスト(1)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉等は調べておくこと(1時間)	
	4	2 スピーチを聞く 文法項目・チェック・まとめの問題				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	5	3 昔話を読む 見本文・文法項目 小テスト(2)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉等は調べておくこと(1時間)	
	6	3 昔話を読む 文法項目・チェック				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉等は調べておくこと(1時間)	
	7	3 昔話を読む 見本文・文法項目				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉等は調べておくこと(1時間)	
	8	3 昔話を読む 文法項目・チェック・まとめの問題				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	9	4 実用書を読む 見本文・文法項目・チェック 小テスト(3)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉等は調べておくこと(1時間)	
	10	4 実用書を読む 見本文・文法項目・チェック・まとめの問題				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	11	5 ドラマのシナリオを読む 見本文・文法項目 小テスト(4)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉等は調べておくこと(1時間)	
	12	5 ドラマのシナリオを読む 文法項目・チェック				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉等は調べておくこと(1時間)	
	13	5 ドラマのシナリオを読む 見本文・文法項目・チェック				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉等は調べておくこと(1時間)	
	14	5 ドラマのシナリオを読む 見本文・文法項目・チェック・まとめの問題				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	15	小テスト(5) 前期の復習				定期テストに向けて、復習しておくこと(1時間)	
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	小テスト	◎	○		◎		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	読解中上級						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	野口 仁美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(2年)2年						
授業概要	この授業では、日本語能力試験N1に出題される形式の問題を解くことによって、試験形式に慣れるとともに、試験対策にとどまらない全般的な読解力をつけることを目指します。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				評論、解説、エッセイなどの文章を読み、その文章のしくみが分類できる。	
	○	○				評論、解説、エッセイなどの文章を読み、細かい部分を正確に読み取ることができる。	
	○	○				広告、お知らせ、説明書きなどを読み、全体的な内容をつかむことができる。	
	○	○				広告、お知らせ、説明書きなどを読み、必要な情報を探し出すことができる。	
	○	○				実際の試験問題と同じ形式の問題を解き、正しい答えを導き出すことができる。	
テキスト・教材 参考図書	福岡理恵子他『新完全マスターN1読解』スリーエーネットワーク 2011年 岡まゆみ『速読の日本語 第2版』Japanタイムス 2013年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業の概要説明 文章の仕組みを理解する 対比・言い換え			授業で解いた問題を再度見直し、正解へのプロセスをよく復習しておくこと(1時間)		
	2	文章の仕組みを理解する 比喩・疑問提示文			授業で解いた問題を再度見直し、正解へのプロセスをよく復習しておくこと(1時間)		
	3	問いを解く技術を身につける 指示語、『誰が』『何を』などを問う			授業で解いた問題を再度見直し、正解へのプロセスをよく復習しておくこと(1時間)		
	4	問いを解く技術を身につける 下線部の意味、理由、例を問う			授業で解いた問題を再度見直し、正解へのプロセスをよく復習しておくこと(1時間)		
	5	全体をつかむ			授業で解いた問題を再度見直し、正解へのプロセスをよく復習しておくこと(1時間)		
	6	情報を探し出す 広告 お知らせ			授業で解いた問題を再度見直し、正解へのプロセスをよく復習しておくこと(1時間)		
	7	情報を探し出す 説明書き 表、リスト			授業で解いた問題を再度見直し、正解へのプロセスをよく復習しておくこと(1時間)		
	8	内容理解(中文)			授業で解いた問題を再度見直し、正解へのプロセスをよく復習しておくこと(1時間)		
	9	内容理解(長文)			授業で解いた問題を再度見直し、正解へのプロセスをよく復習しておくこと(1時間)		
	10	主張理解(長文)			授業で解いた問題を再度見直し、正解へのプロセスをよく復習しておくこと(1時間)		
	11	統合理解 情報検索			授業で解いた問題を再度見直し、正解へのプロセスをよく復習しておくこと(1時間)		
	12	模擬試験			授業で解いた問題を再度見直し、正解へのプロセスをよく復習しておくこと(1時間)		
	13	読解 後期に向けて 1 生教材 速読の日本語			授業で扱ったテーマに関連する記事を読んだりニュースを見て、理解を深めること(1時間)		
	14	読解 後期に向けて 2 生教材 速読の日本語			授業で扱ったテーマに関連する記事を読んだりニュースを見て、理解を深めること(1時間)		
15	読解 後期に向けて 3 生教材 速読の日本語			授業で扱ったテーマに関連する記事を読んだりニュースを見て、理解を深めること(1時間)			
評価方法	前期に実施する2回の模擬試験の成績、定期試験(筆記)の成績で評価します。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とします。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	模擬試験	◎	◎				50%
履修上の注意							

科目名	聴解中上級						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	深町 葉子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(2年)2年						
授業概要	日常の様々な場面やトピックにおいてまとまった説明を理解し、共感を示したり、わからない点を聞き返したりできる能動的な聞く力をつけることを目標とする。 同時に日本語能力試験対策として、出題問題をパターンごとに練習し、N1に合格できる聴解力をつける。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					時候の挨拶や天気、友人のアルバイトの話を聞いて、理解し内容を示すことができる。	
	○					日本の文化やお店での専門的な話を聞いて、質問に答えたり内容を確認したりすることができる。	
	○					料理についての説明や友人の旅行や恋愛の経験談を聞いて、理解し共感を示すことができる。	
	○					日本の会社の話を聞いて、理解しさらに質問することができる。	
	○					1つの分野の専門家にインタビューし、その内容を理解した上で相手に話を促すことができる。	
テキスト・教材 参考図書	鎌田修他 『中級から上級への日本語なりきりリスニング』 The Japan Times 2017年 氏原康子他 『日本語能力試験N1聴解必修パターン』 Jリサーチ出版 2017年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	Unit1 はじまりは桜から① / N1聴解 課題理解Unit1			重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)		
	2	Unit1 はじまりは桜から② / N1聴解 課題理解Unit2			重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)		
	3	Unit2 食べる楽しみ① / N1聴解 ポイント理解Unit1			重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)		
	4	Unit2 食べる楽しみ② / N1聴解 ポイント理解Unit2			重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)		
	5	Unit3 バイト体験① / N1聴解 概要理解Unit1、2			重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)		
	6	Unit3 バイト体験① / N1聴解 概要理解Unit3、4			重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)		
	7	Unit4 結婚のお祝い① / N1聴解 統合理解Unit1			重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)		
	8	Unit4 結婚のお祝い② / N1聴解 統合理解Unit2			重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)		
	9	Unit5 買う楽しみ			重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)		
	10	Unit6 旅する楽しみ① / N1聴解 即時応答Unit1~5			重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)		
	11	Unit6 旅する楽しみ② / N1聴解 即時応答Unit6~9			重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)		
	12	Unit7 会社の話を聞く			重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)		
	13	Unit8 恋の話			重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)		
	14	Unit9 笑う楽しみ			重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)		
	15	Unit10 落語家にインタビュー			重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)		
評価方法	(1)期末試験(筆記)を実施する。(2)模擬試験(筆記)を2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	期末試験		◎				50%
	模擬試験		◎				50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	会話中上級						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	藤井 百合子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(2年)2年						
授業概要	活動を通して、自分の言いたいことを相手に適切に伝え、また相手の言っている意図を的確に理解し、互いに調整する力(コミュニケーション能力)の育成を目的とする。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		自分の言いたいことを、自分の言葉で伝えられる	
	○			○		自分の言いたいことを、聞き手を意識して調整して伝えられる	
	○	○		○		自分の言いたいことを、内容を整理して説得的に伝えられる	
	○			○		自分の言いたいことを、聞き手の感情に配慮して伝えられる	
テキスト・教材 参考図書	石黒圭 『コミュニケーションのためのクラス活動40』 スリーエーネットワーク 2018年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	カードに書かれたトピックについて即興で話す			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	2	自分自身の素晴らしさを魅力的に演出する			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	3	雑談の場で適切なときに話題を転換し、終了する技術を磨く			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	4	相手のタイプに合わせた話し方を考えて実践する			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	5	ミステリー小説を題材に協力して読み、推理する			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	6	物語の解釈について考えを伝え合う			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	7	イラストを組み合わせ話を作り説明する			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	8	話の展開に使うフィラーを用いてスピーチを行う			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	9	会話の相手・場・内容を考えながら依頼をする			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	10	常識に反するような意見を論理的に主張し説得する			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	11	友人の悩みを聞き出し相談にのる			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	12	他社の意見を取り入れながらロールプレイを行う			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	13	相手の話を聞き、考え方や行動などの内面をほめる			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	14	気まずい場面をユーモアのある対応で切り抜ける			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	15	自分の話に言葉を追加してユーモアのある話にする			授業内容を復習しておくこと(30分)		
評価方法	(1)定期試験(口述)を実施する。(2)授業中の活動・発表を滑らかさ、発音・イントネーション・言葉遣い・積極性の観点から評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					50%
	活動・発表	◎	○		◎	◎	50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	作文中上級						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	浅田 和泉		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(2年)2年						
授業概要	文章を論理的に書けると言うことは、特に進学等をする上で非常に重要だと考える。他の人の意見や社会の現状等に対する自分の何らかの意見・意志・考えを論理的にわかりやすくまとめ、文章で表現できるようになることを目標とする。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				参考図書等の内容が理解でき、それに対して自分の考えがまとめられる。	
	○	○				自分の意見を考え等を論理的に表現できる。	
				○		積極的に話題を選び、参加することができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・自主作成テキスト ・目黒真美 『中上級学習者のための日本語読解ワークブック』 アルク 2017年 ・山本富美子 『国境を越えて[本文編]留学生・日本人学生のための一般教養書』 新曜社 2010年 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション／書き言葉①			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	2	書き言葉②			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	3	意見文を書く①			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	4	意見文を書く②			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	5	意見文を書く③			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	6	論文を書く際の注意点<論文と作文の違い>①			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	7	論文を書く際の注意点<論文と作文の違い>②			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	8	論文でよく使用される語・表現			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	9	文章の構成①			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	10	文章の構成②			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	11	文章の構成③			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	12	文章の構成④			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	13	スピーチを考える①			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	14	スピーチを考える②			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
15	まとめ／review			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)			
評価方法	(1)授業で実施する実力テストを定期試験とする。(2)授業の中で数回課題を実施する。以上を下記の割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)(B70点以上)(C60点以上)(D59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	課題	◎	◎		◎		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	日本語試験対策中上級						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	村上 陽子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(2年)2年						
授業概要	幅広い場面で使われる日本語を読んだり、聞いたりして理解することができるようになることを目指す。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○			○	幅広い話題について書かれた、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を予測することができる。	
	○	○			○	様々な話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を予測することができる。	
	○	○			○	幅広い場面において自然なスピードの、まとまりのある会話やニュース、講義を聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係や内容の論理構成などを詳細に判断したり、要旨を把握したりできる。	
テキスト・教材 参考図書	青山豊 『日本語能力試験N1予想問題集改訂版』 国書刊行会 2018年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	問題1 漢字読み 問題2 文脈規程			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	2	問題3 言い換え類義			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	3	問題4 用法			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	4	問題5 文の文法1:文法形式の判断			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	5	問題6 文の文法2:文の組み立て			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	6	問題7 文章の文法			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	7	問題8 内容理解:短文			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	8	問題9 内容理解:中文			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	9	問題10 内容理解:長文			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	10	問題11 統合理解			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	11	問題12 主張理解			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	12	問題13 情報検索 聴解:課題理解			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	13	聴解:ポイント理解			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	14	聴解:概要理解			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	15	聴解:即時応答・統合理解			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
評価方法	(1)模擬試験を2回実施する。(2)日本語能力試験の結果以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				50%
	日本語能力試験	◎	◎				50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合日本語中上級(日本語中上級)							
科目名(英)								
単位数	14単位	時間数	179/215時間	担当者	村上 陽子			
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験				
対象学科・学年	日本語科(2年)2年							
授業概要	日常身近に体験する出来事や社会的な話題について、自分の感想や考えが理由とともに詳しく説明できるようになること、異なる視点や考え方を持つ相手とも、興味・関心を持って適切な表現で情報や意見の交換ができるようになることを目指す。							
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					より複雑な文の構造を理解し、適切な接続により、まとまった内容の文でやり取りできる。		
	○					文章の構造を理解し、まとまった内容の文章を読み書きできる。		
	○	○				理解できる漢字及び語彙を増やすとともに、適切に使用できる漢字や語彙・表現の範囲を広げる。		
	○					発話意図、スピーチレベル、場面などに合わせて適切に表現が使い分けられる。		
	○		○			自らに關係する諸問題について、自分なりの見解を持ち、それを相手が納得するように説明でき、また、異なる視点を持つ者と適切な意見交換ができる。		
テキスト・教材 参考図書	松田浩志 『テーマ別上級で学ぶ日本語』 研究社 2019年							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示			
	1 ～ 9	第6課 うやまう <ガイドさんの宗教> 宗教について			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと。また、授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。(1時間)			
	10 ～ 18	第7課 ふせぐ <並ぶ文化> 安全な社会とは			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと。また、授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。(1時間)			
	19 ～ 27	第8課 もてなす <ローソクの島> おもてなしとは			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと。また、授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。(1時間)			
	28 ～ 36	第9課 よびかける <一茶の目> 無関心社会について			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと。また、授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。(1時間)			
	37 ～ 45	第10課 えらぶ <自らの選択> 生きるとは			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと。また、授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。(1時間)			
	46 ～ 54	第11課 いかす <もったいない話> 「使い捨て」時代について			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと。また、授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。(1時間)			
	55 ～ 63	第12課 つなぐ <折り鶴> 異文化をどう理解するか			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと。また、授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。(1時間)			
	64 ～ 72	第13課 たのしむ <なりわい> 仕事とは			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと。また、授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。(1時間)			
	73 ～ 81	第14課 きたえる <健康な社会> 健康志向社会が目指すもの			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと。また、授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。(1時間)			
	82 ～ 90	第15課 いきる <ひとつの地球> 平和とは			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと。また、授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。(1時間)			
	評価方法	(1)授業の中で確認テストを3回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 (3)授業への参加状況(日本事情の際の発表や作品)。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		定期試験	◎	◎				40%
		確認テスト	◎	◎				40%
発表・作品					◎		20%	
履修上の注意	出席が72回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	総合日本語中上級(日本事情)						
科目名(英)							
単位数	14単位	時間数	36/215時間	担当者	堀 千佳		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(2年)2年						
授業概要	日本の社会と文化を多角的にとらえ、自国と比較しながら身近な話題として体験する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○		○				
	目標 情報を正しく受信し、自分の意見や見解を正しく発信することができる。						
テキスト・教材 参考図書	佐々木瑞枝『クローズアップ日本事情15』 ジャパンタイムズ 2017年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	日本ってどんな国？			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	2	都市の暮らし・地方の暮らし			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	3	日本の旅を楽しもう			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	4	いただきます！			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	5	季節を楽しむ年中行事			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	6	知っておきたい日本の歴史			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	7	伝統文化体験			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	8	現代文化とポップカルチャー			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	9	スポーツの楽しみ方			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	10	前進を続ける科学技術			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	11	地球のためにできること			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	12	教育と子供たち			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	13	産業構造と経済			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	14	政治と憲法			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	15	多文化共生社会を目指して			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	16	内容確認問題ユニット1～5			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	17	内容確認問題ユニット6～10			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
	18	内容確認問題ユニット11～15			授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめること(30分)		
評価方法	(1)授業の中で確認テストを3回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 (3)授業への参加状況(日本事情の際の発表)。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				40%
	確認テスト	◎	◎				40%
	発表				◎		20%
履修上の注意	出席が72回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	文字語彙中上級						
科目名(英)	Japanese Vocabulary						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	今長 まゆみ		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(2年)2年						
授業概要	日本語能力試験N1「言語知識」科目の「文字・語彙」と同じ形式の問題を解くことで文字語彙力を強化し、7月のN1合格を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				前後の文脈に合うN1レベルの語彙を使うことができる。	
	○	○				N1レベルの語彙を同じ、あるいは、意味の近い他の表現に置き換えることができる。	
	○	○				N1レベルの語彙が文の中で適切に使われているかどうか判断できる。	
	○	○				N1レベルの漢字語彙に適切な接頭辞や接尾辞をつけることができる。	
	○					N1レベルの漢字の読み書きができる。	
テキスト・教材 参考図書	松浦真理子・鈴木健司『日本語能力試験対策 日本語パワードリルN1 文字・語彙』アスク出版 2018年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1回、第2回、第3回			復習と予習をすること(1時間)		
	2	第4回、第5回、集中トレーニング①動詞(1)、②動詞(2)			復習と予習をすること(1時間)		
	3	第6回、第7回、第8回			復習と予習をすること(1時間)		
	4	第9回、第10回、集中トレーニング③慣用句(1)、④慣用句(2)			復習と予習をすること(1時間)		
	5	第11回、第12回、第13回			復習と予習をすること(1時間)		
	6	第14回、第15回、集中トレーニング⑤カタカナ語(1)、⑥カタカナ語(2)			復習と予習をすること(1時間)		
	7	第16回、第17回、第18回			復習と予習をすること(1時間)		
	8	第19回、第20回、集中トレーニング⑦⑧擬音語・擬態語(1)(2)			復習と予習をすること(1時間)		
	9	第21回、第22回、第23回			復習と予習をすること(1時間)		
	10	第24回、第25回、集中トレーニング⑨擬音語・擬態語(3)、⑩パソコン			JLPTに備えてテキストを総復習すること(1時間)		
	11	第26回、第27回、第28回			JLPTに備えてテキストを総復習すること(1時間)		
	12	第29回、第30回、集中トレーニング⑪大学生活、⑫ビジネス			テキストを復習すること(1時間)		
	13	パワードリルN1文字語彙まとめテスト①(P8～P31)			テキストを復習すること(1時間)		
	14	パワードリルN1文字語彙まとめテスト②(P32～P55)			テキストを復習すること(1時間)		
	15	パワードリルN1文字語彙まとめテスト③(P56～P79)			間違えた問題を再度確認すること(1時間)		
評価方法	(1)授業の中で小テストを3回実施する。(2)期末試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	期末試験	◎	○				50%
	小テスト	◎	○		○		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	文法中上級						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	野口 仁美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(2年)2年						
授業概要	文法は「聞く・話す・読む・書く」の基礎になるものです。この授業では、実際にその文法がどのように使われているかを知り、基本的な練習で使い慣れ、まとめの問題で話を聞いたり日本語の文章を読んだりする運用練習をします。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				イベントなどに関する記事を読んで、その特色や様子が述べられる。	
	○	○				公的な立場の人のスピーチを聞いて、現状の説明と提言が予測できる。	
	○	○				昔話の表現を楽しみながら、物語の展開を追って読める。	
	○	○				実用書などを読んで、筆者の考察が予測できる。	
	○	○				ドラマのシナリオを読んで、登場人物の批判的な心情が予測できる。	
テキスト・教材 参考図書	町田恵子他 『TRY!日本語能力試験N1』 アスク出版 2013年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業の概要説明 1ニュースを読む 見本文・文法項目				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	2	1 ニュースを読む 文法項目・チェック・まとめの問題				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉等は調べておくこと(1時間)	
	3	2 スピーチを聞く 見本文・文法項目 小テスト(1)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉等は調べておくこと(1時間)	
	4	2 スピーチを聞く 文法項目・チェック・まとめの問題				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	5	3 昔話を読む 見本文・文法項目 小テスト(2)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉等は調べておくこと(1時間)	
	6	3 昔話を読む 文法項目・チェック				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉等は調べておくこと(1時間)	
	7	3 昔話を読む 見本文・文法項目				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉等は調べておくこと(1時間)	
	8	3 昔話を読む 文法項目・チェック・まとめの問題				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	9	4 実用書を読む 見本文・文法項目・チェック 小テスト(3)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉等は調べておくこと(1時間)	
	10	4 実用書を読む 見本文・文法項目・チェック・まとめの問題				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	11	5 ドラマのシナリオを読む 見本文・文法項目 小テスト(4)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉等は調べておくこと(1時間)	
	12	5 ドラマのシナリオを読む 文法項目・チェック				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉等は調べておくこと(1時間)	
	13	5 ドラマのシナリオを読む 見本文・文法項目・チェック				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉等は調べておくこと(1時間)	
	14	5 ドラマのシナリオを読む 見本文・文法項目・チェック・まとめの問題				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)	
	15	小テスト(5) 前期の復習				定期テストに向けて、復習しておくこと(1時間)	
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	小テスト	◎	○		◎		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	読解中上級						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	野口 仁美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(2年)2年						
授業概要	この授業では、日本語能力試験N1に出題される形式の問題を解くことによって、試験形式に慣れるとともに、試験対策にとどまらない全般的な読解力をつけることを目指します。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				評論、解説、エッセイなどの文章を読み、その文章のしくみが分類できる。	
	○	○				評論、解説、エッセイなどの文章を読み、細かい部分を正確に読み取ることができる。	
	○	○				広告、お知らせ、説明書きなどを読み、全体的な内容をつかむことができる。	
	○	○				広告、お知らせ、説明書きなどを読み、必要な情報を探し出すことができる。	
	○	○				実際の試験問題と同じ形式の問題を解き、正しい答えを導き出すことができる。	
テキスト・教材 参考図書	福岡理恵子他『新完全マスターN1読解』スリーエーネットワーク 2011年 岡まゆみ『速読の日本語 第2版』Japanタイムス 2013年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業の概要説明 文章の仕組みを理解する 対比・言い換え			授業で解いた問題を再度見直し、正解へのプロセスをよく復習しておくこと(1時間)		
	2	文章の仕組みを理解する 比喩・疑問提示文			授業で解いた問題を再度見直し、正解へのプロセスをよく復習しておくこと(1時間)		
	3	問いを解く技術を身につける 指示語、『誰が』『何を』などを問う			授業で解いた問題を再度見直し、正解へのプロセスをよく復習しておくこと(1時間)		
	4	問いを解く技術を身につける 下線部の意味、理由、例を問う			授業で解いた問題を再度見直し、正解へのプロセスをよく復習しておくこと(1時間)		
	5	全体をつかむ			授業で解いた問題を再度見直し、正解へのプロセスをよく復習しておくこと(1時間)		
	6	情報を探し出す 広告 お知らせ			授業で解いた問題を再度見直し、正解へのプロセスをよく復習しておくこと(1時間)		
	7	情報を探し出す 説明書き 表、リスト			授業で解いた問題を再度見直し、正解へのプロセスをよく復習しておくこと(1時間)		
	8	内容理解(中文)			授業で解いた問題を再度見直し、正解へのプロセスをよく復習しておくこと(1時間)		
	9	内容理解(長文)			授業で解いた問題を再度見直し、正解へのプロセスをよく復習しておくこと(1時間)		
	10	主張理解(長文)			授業で解いた問題を再度見直し、正解へのプロセスをよく復習しておくこと(1時間)		
	11	統合理解 情報検索			授業で解いた問題を再度見直し、正解へのプロセスをよく復習しておくこと(1時間)		
	12	模擬試験			授業で解いた問題を再度見直し、正解へのプロセスをよく復習しておくこと(1時間)		
	13	読解 後期に向けて 1 生教材 速読の日本語			授業で扱ったテーマに関連する記事を読んだりニュースを見て、理解を深めること(1時間)		
	14	読解 後期に向けて 2 生教材 速読の日本語			授業で扱ったテーマに関連する記事を読んだりニュースを見て、理解を深めること(1時間)		
15	読解 後期に向けて 3 生教材 速読の日本語			授業で扱ったテーマに関連する記事を読んだりニュースを見て、理解を深めること(1時間)			
評価方法	前期に実施する2回の模擬試験の成績、定期試験(筆記)の成績で評価します。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とします。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	模擬試験	◎	◎				50%
履修上の注意							

科目名	聴解中上級						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	深町 葉子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(2年)2年						
授業概要	日常の様々な場面やトピックにおいてまとまった説明を理解し、共感を示したり、わからない点を聞き返したりできる能動的な聞く力をつけることを目標とする。 同時に日本語能力試験対策として、出題問題をパターンごとに練習し、N1に合格できる聴解力をつける。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					時候の挨拶や天気、友人のアルバイトの話を聞いて、理解し内容を示すことができる。	
	○					日本の文化やお店での専門的な話を聞いて、質問に答えたり内容を確認したりすることができる。	
	○					料理についての説明や友人の旅行や恋愛の経験談を聞いて、理解し共感を示すことができる。	
	○					日本の会社の話を聞いて、理解しさらに質問することができる。	
	○					1つの分野の専門家にインタビューし、その内容を理解した上で相手に話を促すことができる。	
テキスト・教材 参考図書	鎌田修他 『中級から上級への日本語なりきりリスニング』 The Japan Times 2017年 氏原康子他 『日本語能力試験N1聴解必修パターン』 Jリサーチ出版 2017年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	Unit1 はじまりは桜から① / N1聴解 課題理解Unit1				重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)	
	2	Unit1 はじまりは桜から② / N1聴解 課題理解Unit2				重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)	
	3	Unit2 食べる楽しみ① / N1聴解 ポイント理解Unit1				重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)	
	4	Unit2 食べる楽しみ② / N1聴解 ポイント理解Unit2				重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)	
	5	Unit3 バイト体験① / N1聴解 概要理解Unit1、2				重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)	
	6	Unit3 バイト体験① / N1聴解 概要理解Unit3、4				重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)	
	7	Unit4 結婚のお祝い① / N1聴解 統合理解Unit1				重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)	
	8	Unit4 結婚のお祝い② / N1聴解 統合理解Unit2				重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)	
	9	Unit5 買う楽しみ				重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)	
	10	Unit6 旅する楽しみ① / N1聴解 即時応答Unit1~5				重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)	
	11	Unit6 旅する楽しみ② / N1聴解 即時応答Unit6~9				重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)	
	12	Unit7 会社の話を聞く				重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)	
	13	Unit8 恋の話				重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)	
	14	Unit9 笑う楽しみ				重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)	
	15	Unit10 落語家にインタビュー				重要語彙・表現を整理し、復習すること(1時間)	
評価方法	(1)期末試験(筆記)を実施する。(2)模擬試験(筆記)を2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	期末試験		◎				50%
	模擬試験		◎				50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	会話中上級						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	藤井 百合子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(2年)2年						
授業概要	活動を通して、自分の言いたいことを相手に適切に伝え、また相手の言っている意図を的確に理解し、互いに調整する力(コミュニケーション能力)の育成を目的とする。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		自分の言いたいことを、自分の言葉で伝えられる	
	○			○		自分の言いたいことを、聞き手を意識して調整して伝えられる	
	○	○		○		自分の言いたいことを、内容を整理して説得的に伝えられる	
	○			○		自分の言いたいことを、聞き手の感情に配慮して伝えられる	
テキスト・教材 参考図書	石黒圭 『コミュニケーションのためのクラス活動40』 スリーエーネットワーク 2018年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	カードに書かれたトピックについて即興で話す			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	2	自分自身の素晴らしさを魅力的に演出する			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	3	雑談の場で適切なときに話題を転換し、終了する技術を磨く			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	4	相手のタイプに合わせた話し方を考えて実践する			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	5	ミステリー小説を題材に協力して読み、推理する			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	6	物語の解釈について考えを伝え合う			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	7	イラストを組み合わせ話を作り説明する			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	8	話の展開に使うフィラーを用いてスピーチを行う			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	9	会話の相手・場・内容を考えながら依頼をする			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	10	常識に反するような意見を論理的に主張し説得する			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	11	友人の悩みを聞き出し相談にのる			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	12	他社の意見を取り入れながらロールプレイを行う			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	13	相手の話を聞き、考え方や行動などの内面をほめる			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	14	気まずい場面をユーモアのある対応で切り抜ける			授業内容を復習しておくこと(30分)		
	15	自分の話に言葉を追加してユーモアのある話にする			授業内容を復習しておくこと(30分)		
評価方法	(1)定期試験(口述)を実施する。(2)授業中の活動・発表を滑らかさ、発音・イントネーション・言葉遣い・積極性の観点から評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					50%
	活動・発表	◎	○		◎	◎	50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	作文中上級						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	浅田 和泉		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(2年)2年						
授業概要	文章を論理的に書けると言うことは、特に進学等をする上で非常に重要だと考える。他の人の意見や社会の現状等に対する自分の何らかの意見・意志・考えを論理的にわかりやすくまとめ、文章で表現できるようになることを目標とする。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				参考図書等の内容が理解でき、それに対して自分の考えがまとめられる。	
	○	○				自分の意見を考え等を論理的に表現できる。	
				○		積極的に話題を選び、参加することができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・自主作成テキスト ・目黒真美 『中上級学習者のための日本語読解ワークブック』 アルク 2017年 ・山本富美子 『国境を越えて[本文編]留学生・日本人学生のための一般教養書』 新曜社 2010年 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション／書き言葉①			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	2	書き言葉②			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	3	意見文を書く①			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	4	意見文を書く②			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	5	意見文を書く③			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	6	論文を書く際の注意点<論文と作文の違い>①			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	7	論文を書く際の注意点<論文と作文の違い>②			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	8	論文でよく使用される語・表現			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	9	文章の構成①			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	10	文章の構成②			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	11	文章の構成③			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	12	文章の構成④			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	13	スピーチを考える①			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
	14	スピーチを考える②			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)		
15	まとめ／review			授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)			
評価方法	(1)授業で実施する実力テストを定期試験とする。(2)授業の中で数回課題を実施する。以上を下記の割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)(B70点以上)(C60点以上)(D59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	課題	◎	◎		◎		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	日本語試験対策中上級						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	村上 陽子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(2年)2年						
授業概要	幅広い場面で使われる日本語を読んだり、聞いたりして理解することができるようになることを目指す。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○			○	幅広い話題について書かれた、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を予測することができる。	
	○	○			○	様々な話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を予測することができる。	
	○	○			○	幅広い場面において自然なスピードの、まとまりのある会話やニュース、講義を聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係や内容の論理構成などを詳細に判断したり、要旨を把握したりできる。	
テキスト・教材 参考図書	青山豊 『日本語能力試験N1予想問題集改訂版』 国書刊行会 2018年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	問題1 漢字読み 問題2 文脈規程			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	2	問題3 言い換え類義			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	3	問題4 用法			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	4	問題5 文の文法1:文法形式の判断			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	5	問題6 文の文法2:文の組み立て			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	6	問題7 文章の文法			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	7	問題8 内容理解:短文			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	8	問題9 内容理解:中文			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	9	問題10 内容理解:長文			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	10	問題11 統合理解			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	11	問題12 主張理解			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	12	問題13 情報検索 聴解:課題理解			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	13	聴解:ポイント理解			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	14	聴解:概要理解			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
	15	聴解:即時応答・統合理解			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない言葉を調べておくこと(1時間)		
評価方法	(1)模擬試験を2回実施する。(2)日本語能力試験の結果以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				50%
	日本語能力試験	◎	◎				50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						